

映画

福島 六ヶ所 未来への伝言

監督 島田 恵さんと話そう

原発のない社会をつくるために



このたびの、福島原発事故は、
ひとたび事故が起これば原子力は制御不能であり、
水や大地を放射能で汚染し、いのちと生活を脅かすことを証明しました。
原子力といのちが共存できないことを
身をもって体験している福島や青森の人たち、
とりわけお母さんや子どもたちに、
いのちの尊さを伝えてもらおうと思い、この映画をつくりました。
六ヶ所と福島を歩いて、私が見た現実と、思いを、お伝えし、
みなさんと一緒に、これからのことを、話し合いたいと思っています。
お会いできるのを楽しみにしています。 （しまだ・けい）



◆ 日時：5月19日（土） 13:00～16:00

◆ 場所：東林公民館 1階 和室

小田急江ノ島線「東林間」下車 徒歩10分

所在地／〒252-0314 神奈川県相模原市南区相南1-10-10

電話／042-744-0087 FAX／042-744-0084

◆ 参加費：おとな500円 小学生以下無料

◆ 定員：80名

◆ お申し込み・連絡先：pecomatu7@gmail.com

☎：090-6701-0027 松下

◆ 主催：こどもまもりたい <http://ameblo.jp/hirohaco/>

～映画制作にあたって～

六ヶ所村で暮らした12年間、私はフォトジャーナリストとしてまた一人の生活者として、核燃問題を見つめてきました。「原発1年分の放射能を1日で出す」といわれる再処理工場は、事故続きで操業予定が延期（2012年10月）されているものの、全国の原発から出る放射性廃棄物や海外からの返還高レベルガラス固化体などは、続々と運び込まれています。このままいけば、六ヶ所村は永久的に核のゴミ捨て場となるでしょう。何万年という単位の期間放射能を出し続ける核のゴミを、これ以上地球の未来に残していいのでしょうか。

その答えは、このたびの福島原発事故で明らかになったと言わざるをえません。福島のお母さんたちは、放射能から子どもたちを守るために、立ち上がり、国を動かしました。かつて六ヶ所村や青森県内でも、核燃から子どもを守ろうと、多くのお母さんたちが行動を起こしました。建設されてしまった現在も、青森の人々は決して容認しているわけではなく、目に見えぬ圧力の中で、不安な気持ちを抱えて生活しています。

私は、原子力といのちが共存できないことを身をもって体験している福島や青森の人たち、とりわけお母さんや子供たちに、いのちの尊さを伝えてもらおうと思います。そのことによって、日本に暮らす私たち一人ひとりがこの問題をどう引き受けていくのか、これからのエネルギーをどう選択していくのか、この映画がそのメッセージとなり得、未来の世代への贈り物となることを願っています。

●島田 恵さんプロフィール●

しまだ・けい 1959年東京生まれ。写真雑誌社、スタジオ写真などを経てフリーの写真家に。1986年のチェルノブイリ原発事故後初めて六ヶ所村を訪れ、核燃問題で揺れる村に衝撃を受け取材を始める。1990年から2002年までは六ヶ所村に在住。あらたに映像分野で核燃問題を伝えようと、2011年から映画制作に乗り出す。第7回平和・共同ジャーナリスト基金賞受賞。

●「こどもまもりたい」について●

放射能のこと、原発のこと、福島のこと、いま、何が起きているのか知りたい、何が問題なのか見極めたい。そのためには「まずは知らなきゃね!」と考える人たちが集まりました。そして、子どもたちの未来のために、これからどんなことをしていっていいのかを、わいわい、前向きに考えあいたい!というのが「こどもまもりたい」です。

講演会や勉強会企画、そして、隊員募集中!

連絡先: <http://ameblo.jp/hirohaco/>

